

第35回

茨城大学学生による行方市の魅力発見

— 学生のSDGs視点から

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田 真里

1. 行方市SDGsフィールド
ワーク2023を実施

去る8月18、19日、私の研究室の学生12名と共に「行方市SDGsフィールドワーク2023」を実施しました。ご対応・ご尽力をいただきました、訪問先の皆さまをはじめ市役所の皆さま、そして関係者各位に、心より感謝申し上げます。

この機会に、SDGsや地域課題について学ぶ学生の視点から、フィールドワーク・ボランティア活動を通じて見聞し、感じ、考えたことを皆さまへフィードバックさせていただきます。今回は茨城大学学生による、行方市の魅力発見についてご紹介します。

2. 豊かな自然とおいしい食べ物
— お金では実現できない魅力

今回のフィールドワークを通して、人生で初めて霞ヶ浦を訪問しましたが、そのあまりの美しさ思わず感動し、心が洗われまし。都会のように利便性を高め、さまざまな施設を建設する等を通じて都市化することは、財源さえ整えば実現できるでしょう。しかし、行方市の豊かな自然資源や景観は、資金があっても作り出すことは困難です。茨城県は自然豊かな県ですが、中でも行方市は随所に自然を感じられ、空気が澄んでいる点は本当に魅力的です。おいしい食べ物も魅力的です。行方市観光物産館「こいこい」には、新鮮な農産物や霞ヶ浦の幸が豊富です。野田先生は、行方市の仕事の度にここで食材を購入し、とてもおいしくいただいているとのことでした。今回、私たち

も地元食材をBBQでいただき、野菜やブランド豚「美明豚」が絶品で、肉の味とボリュームに圧倒されました。新米のおにぎりは、何もつけずにお米本来の味を楽しむことができ、非常においしかったです。(3年生・女性、4年生・女性)

3. 郷愁あふれる空気感—「住んでみたい」と感じる居心地の良さ

行方市はどこかのどかで郷愁あふれる、ここでしか味わえない空気を感じます。都会の喧噪に囲まれている人々にとって、行方市は日常を忘れて童心に帰るような気分を味わえる、大切な土地だと思います。私が大学卒業後、社会人になり、家族を持ったとき、また家族と共に行方市を訪れたいと感じました。

宿泊させていただいた手賀定住化促進施設の居心地の良さは印象的でした。まるで宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」の舞台の中に見えるような自然豊かな立地で、外観も昔ながらの趣がありまし

た。憧れであった縁側からの自然の眺めが最高で、心が癒されました。夜、空を見上げた時の散らばる星ときらめく月光は、これまでに見たどんな夜空よりもきれいでした。ここに「住んでみたい」と心の底から感じました。もつこの「お試し住宅」をたくさんの人に体験してもらい、同じ感動を味わってほしいと思います。(3年生・女性、4年生・男性)



▶2023年度茨城大学野田真里研究室一同、手賀定住化促進施設にて